

平成28年度 学校関係者評価報告書

大阪市立 堀川小学校 学校協議会

1 総括についての評価

本年度の自己評価結果は概ね妥当である。

国語科・算数科を中心に言語活動の充実を図ってきた結果、全国学力学習状況調査において全国・大阪市の平均を大きく上回る結果であった。また、保護者アンケート(平成29年1月家庭数調査)においては、「楽しく子どもが学校に通っている」という設問において94.5%が肯定的な意見であった。

仲間づくりに関しては、たてわり班活動や特別支援教育を充実させてきた結果、人権感覚豊かな子どもに育ちつつあるとの評価できる。また、狭小の運動場を有効に活用した「なわとび運動」や「かけ足運動」「体幹を鍛える体づくりの運動」の取り組みについても学校独自の取り組みであり高く評価できる。

本校の特色であるマーチング指導に、外部からの指導者を招き、隊形移動や迫力のある演奏ができたことも参観されている方々から高い評価を受けた。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：学力の向上

- ① 児童の言語力や思考力・表現力の育成を図る。 (マネジメント改革)
- ② 児童の読書量を増やす。 (カリキュラム改革)
- ③ 校内研究教科である道徳科をはじめ、様々な教科において言語活動の充実を図り、指導方法の工夫・改善を行う。議論し合う道徳科の授業を通して、自分の考えを伝え合う力を育む。 (マネジメント改革)
- ④ 全学年で英語活動モジュールタイムを実施する。 (カリキュラム改革・グローバル改革)

達成状況の評価は概ね妥当である。

話し合い活動や書く活動を重視した指導を数多く取り入れることにより言語活動の充実を図られた。その結果、全国学力・学習状況調査の結果で、問題Bのすべての設問に対して全国平均を上回り目標を達成するとともに、大阪市学力経年調査においても、3年から6年の4学年4教科の問題分類別項目の「基礎・基本」及び「活用」の2項目全てについて大阪市を上回るよい結果であった。

また、読書通帳の活用や図書館補助員の活用により、「読書が好き」と肯定的な回答をした児童は83.2%で、読書をすすんでする子どもに育っている。また、本年度全学年で取り組んだ英語学習では、「英語活動は楽しい」の肯定的回答が85.6%と効果をあげている。

年度目標：道徳心・社会性の育成

- ① 「学校生活のきまり」を守って生活できるように取り組む。すすんであいさつできる児童を育てる。 (マネジメント改革)

- ② 配慮を要する児童に対する校内外の研修に積極的に参加し、全職員が共通理解し実践する。 (マネジメント改革)
- ③ 道徳教育の年間計画を作成し、指導方法の工夫・改善を行う。 (マネジメント改革)
- ④ たてわり班活動を活発に行い、たてわり班長を中心にした活動の充実を図る。 (マネジメント改革)

達成状況の評価は概ね妥当である。

「きまりを守って生活する」「すすんであいさつする」について児童アンケートでは、いずれも90%以上が肯定的な回答をしている。あいさつについては、今後も場に応じたあいさつができるようあらゆる機会を通して指導してほしい。

配慮を要する子どもたちへの支援については、一人一人の実態に応じた指導や助言がなされていることが保護者へのアンケートでも評価できる。

また、本年度は道徳の研究を進めており、子どもたちの豊かな心の育成にも力を入れていることがうかがえる。異学年集団のたてわり班活動についても子どもたちにとって楽しい活動を工夫して実施しており、上の学年の子どもが下の学年の子どもの面倒をよく見る・下の学年の子どもは上の学年の子どもをよいお手本として見て学ぶといった仲間づくりがすすんでいる。

「自分にはよいところがある」という項目において、肯定的回答が全国より低いことから、自尊感情の育成については、継続して取り組んでほしい。

年度目標：健康・体力の保持増進

- ① 児童数の増加、狭い運動場にも対応できる体育科授業と体育的な取り組みを通して、すすんで体力作りに取り組む児童の割合をふやす。 (カリキュラム改革)
- ② けがの予防に努め、前年度の実績よりけがの発生率を抑える。 (マネジメント改革)
- ③ 健康に関する取り組みや指導を通して、基本的な生活習慣を確立し、残さず食べようとする意識を高める。 (マネジメント改革)

達成状況の評価は高く評価できる

狭小の運動場ではあったが、本年度は特に「なわとび運動」や「あけ足運動」「体幹を鍛える体づくりの運動」に力を入れて取り組んでおり、成果をあげている。特に、体幹を鍛えることは今の子どもたちにとってとても大切で、今後も継続した指導を期待する。

本年度の全国運動能力調査の結果において、全国・大阪市平均を上回る結果が出ていることはよい傾向である。体力・運動についての取り組みの成果はすぐに出るものではなく、今後も継続して取り組んでほしい。

けがの発生率については、狭小な運動場、児童数の増加ということもあり、昨年度を下回ることはできなかった。3月中旬に運動場拡張工事終了することから、運動場が広くなる(※現状：子ども一人あたりの面積は北区最小)ため、改善を期待する。

健康に関する取り組みでは、保健室掲示や栄養教諭を中心とした食育指導が充実してきている。特に子どもを取り巻く食に関する現状を見た時、学校で出される食材の持つ意味やの食育の重要性は増してきている。継続した取り組みを期待する。

年度目標：本校の特色

- ① 学校の特色の一つとして、伝統あるマーチングを継続し、保護者・地域住民に披露す

る。 (ガバナンス改革)

② 充実した小中連携の取り組みを工夫する。 (カリキュラム改革)

③ 校内の美化を計画的に推進し、美しい学校をつくる。
(カリキュラム改革・ガバナンス改革)

達成状況の評価は概ね妥当である

隊形移動など工夫したマーチングの取り組みについては、随時、保護者・地域への情報発信を行いながら実施したことで理解が得られ、評価目標も達成できたと考える。特に、本校のマーチングは6年生の子どもたちが全員参加で作りあげていくもので、指導者の負担は大きいと思うが、子どもたち自身の達成感や成成感は大きい。

小中連携についても、中学校からの出前授業や生徒会による学校紹介等が行われ、子どもたちの進学に対する不安解消に効果をあげている。

校内美化については、児童アンケートで「学校をきれいにするために掃除を頑張っている」の肯定的回答が92.8%となっており、子どもたちの学校美化に関する意識は高まっている。

3 今後の学校運営についての意見

本年度は、学校目標に「知・徳・体」のバランスのとれた児童の育成をめざしている。

ここ数年、学校は言語力の育成を大切にした授業をすすめてきている。全国学力・学習状況調査や大阪市学力経年調査を見てもよい結果である。この点からも子どもたちの「基礎・基本」はもとより、「活用」の力が育ってきていると言える。このことから「知」の部分については、十分に育っていることがうかがえる。今後も教員の指導力向上に努めてほしい。

「徳」については、学校は年間を通して異学年集団のたてわり班活動をすすめてきており、子どもたちにとって楽しい工夫した取り組みが行われていることが分かった。この点では、学年を超えた仲間づくりが順調にすすんでいることがわかる。また、本年度より道徳の研究をすすめており、今後さらに子どもたちの心の教育がすすんでいくことが期待できる。

反面、「体」の部分については不十分であったため、本年度は特に「なわとび運動」や「あけ足運動」「体幹を鍛える体づくりの運動」に力を入れて重点的に取り組んできた。これらの取組みは、学校の物理的環境や児童の実態をよく考えた具体的な取組みであり、すぐには効果が現れないかも知れないが高く評価できる。さらに、成果をあげていくために今後も継続した取組みをすすめてほしい。

子どもたちが毎日楽しく学校に行っていることがとても大切である。学校アンケートでは「子どもが楽しく学校に行っている」という肯定的な意見が多かったようなので、来年度も仲間づくりを軸に子どもが楽しいと思えるよう学校運営をしてもらいたい。